

トランス・ジャパン・アルプスレース
保田 直宏 激走!



日本海から太平洋まで、アルプスの山々を越えて日本列島を横断する「トランス・ジャパン・アルプスレース (TJAR)」は8月11日に富山湾をスタート。
保田直宏選手(洛陽病院 理学療法士)は猛暑や台風接近など難しい局面が多なか
第3位という快進撃を魅せる活躍をしました。

長い旅の終着点。この旅を目標にやってきました。完走を喜ぶ保田直宏選手。

所要時間 5日 8時間 50分で無事完走



スタートから湿度が高く深夜も汗ばむ気温だったが晴天が続き、雨風によるトラブルが少なかったものの、連日の猛暑は厳しく体力を著しく削られる。苦難を乗り越え自分自身と闘い粘り強く進め続けたことで前回大会(2022年)の13位よりも大幅に順位を上げた。
天気に恵まれ、前回よりコンディションが良かった、足裏のケアを入念に行っていたと対策は万全であった。
今回は携帯電話の水没することもなく無事で前回の経験を活かして完走することができた。

てとて Vol.1



友々苑は居宅サービス(ショートステイ・通所リハビリ・訪問リハビリ・居宅介護支援事業所)と入所サービス(一般棟・認知症専門棟)があります。地域の根ざした施設を目指し、地域の皆様とお顔が見える関係作りを大切にしています。
「将来のことも考えて施設の様子を知っておきたい」「老後の仕組みが知りたい」「生計が困難なため入所を迷っている」など気になる事がございましたら、お気軽にお問い合わせください。
お急ぎの方はお部屋の状況により直ぐにご案内できる場合もございますので、いつでもご相談下さい。

社会福祉法人 介護老人保健施設
友々苑
〒601-1123
京都市左京区静海市原町 447-1
TEL (代) 075-741-5236
(直) 075-741-5252

洛陽病院の
制服が新しくなりました!



職種ごとにはっきりと色分けされ、分かりやすくなりました。コメディカルが白に紺色ライン(右)が入り、看護師がターコイズブルー(中央)、看護助手がワインレッド(左)となっています。ズボンも白から濃紺へ変わりました。心も新たに業務に取り組んでいきます。

洛陽 Recipe No.4
鮭のちゃんちゃん焼

<材料(2人分)>

鮭	2切	にんにく	2g
小麦粉	小さじ2杯	みそ	小さじ2杯
サラダ油	小さじ1杯	酒	小さじ1杯
キャベツ	60g	砂糖	小さじ1杯
たまねぎ	20g	濃口しょうゆ	小さじ
にんじん	10g		
しめじ	10g		
無塩バター	10g		

作り方

- ① キャベツは一口大のざく切り、たまねぎは2cm幅のくし切り、にんじんは短冊切りにする。しめじは小房にほぐす
- ② Aを混ぜ合わせておく
- ③ 鮭に小麦粉をふり、両面をこんがり焼く
- ④ バターで野菜をさっと炒め、Aを入れてしんなりするまでさらに炒める
- ⑤ 焼いた鮭を皿に盛り付け、炒めた野菜を上のにせる。

☆ポイント:野菜から水気が出る場合は④の野菜に片栗粉でとろみをつけると鮭と良く絡んでおいしくなります!

栄養科では、病院のお食事を美味しいといってもらえるよう毎食心を込めて手作りしております。
今回は鮭のちゃんちゃん焼き。秋が旬の鮭ときのこを使った一品です。鮭は骨や筋肉といった身体材料となるタンパク質や、身体の調子を整えてくれるビタミン類が豊富に含まれています。味噌とバターのコクで少ない調味料でも満足感があるので高血圧など塩分を控えたい方にもおすすめです

RAKUYO HOSPITAL PR MAGAZINE
陽だまり
HIDAMARI

Vol.4
2024
September

洛陽病院に musubi cafe がやってきた

7月3日(水) 渡月橋近くにある musubi cafe さんが
コラボ企画で一日限定で出店して下さいました。



コラボレーション企画
musubi cafe × 洛陽病院



CONTENTS

- 一般内科の紹介
- 洛陽病院の新制服
- 「てとて」～友々苑～

「The Doctor who specialize in you.」

家庭医療専門医とは“あなた”の専門医を意味します。

地域社会に生きる人によりそい、共感しながら、病気の背景にある問題を重視し、一人ひとりの家庭や社会事情に応じた診療方針をともに考えます。

簡単に言ってしまうと・・・「あなたのかかりつけ」の医師です。

より高度な専門医による治療や入院治療が必要な場合には適切な医療機関への「橋渡し」（紹介）を、責任を持って行います。

説明が難しい医学的な情報や初対面の医師には伝えづらい患者様の個別的な事情（家庭や経済的な事情、治療方法の好みなど）も、患者様やご家族に代わって紹介先にお伝え致します。

「何科を受診したら良いかわからない」という方もご相談ください。

賀來 敦 一般内科 内科部長（地域医療連携室部長）

（略歴）

1998年に岡山大学薬学部卒業後、大学院に進学。

2000年に第一製薬株式会社（現・第一三共）営業部に医薬情報担当者（MR）として入職。

2003年に旭川医科大学医学部編入学し、2008年卒業。

初期研修は、北海道帯広市の北斗病院（民間病院）で行う。

専門研修は、千葉県立東金病院（内科）・東京女子医大八千代医療センター（小児科）・岡山家庭医療センターのクリニック群（岡山県奈義町・津山市・美作市）で行う。

以後、10年ほどクリニックで、内科・在宅医療に加え、小児・整形・耳鼻科・泌尿器・眼科・皮膚科・婦人科をはじめとした種々の分野の健康問題に対応する外来業務から、特別養護老人ホーム（のべ6施設）/グループホームの施設管理の定期訪問診療や臨時/夜間往診にかかわってきました。

悪性腫瘍だけでなく慢性呼吸器不全・慢性心不全・慢性腎不全・神経難病の終末期在宅看取りも携わりおおむね月1-2名ほどの看取りも経験しています。

そのほか、健診（乳幼児・乳がん・生活習慣病等）・学校医などに携わっていました。

資格：

総合診療/家庭医療専門医

日本プライマリ・ケア連合学会/日本医療教育学会 代議員



2024年4月より地域医療連携室部長（兼務）に就任致しました。

私は特定の臓器や疾患を限定しない多角的な診療が得意です。

患者様だけでなく家族や地域社会へのアプローチも含めて幅広く診る専門性を持っています。

私の得意とする家族志向ケアや地域志向型アプローチの手法をもちいて、様々な生物-心理-社会的問題を地域医療連携室職員とともに解決に導くよう努力致します。

当院は周辺に老健施設4か所、特別養護老人ホーム4か所はじめとした介護系施設が多くあります。

これらの施設やグループホーム・有料老人ホーム・在宅診療所などの「**かかりつけ病棟**」として、

高度急性期医療機関とも連携をとりつつ、岩倉地区の第一選択の医療機関になれるように地域医療に貢献する所存であります。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。